

氏名	相 良 祐 輔
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 5 4 8 号
学位授与の日付	昭和48年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	ヒト末梢組織における Estrogen の代謝に関する研究
論文審査委員	教授 水原舜爾    教授 山崎英正    教授 大藤 真

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

末梢標的臓器での Estrogen の作用機序を解明する目的で、正常子宮内膜、筋腫子宮内膜および子宮筋、正常皮膚、汎発性鞏皮症皮膚の Incubation 実験をおこない、次の結果を得た。

- 1) ヒトの子宮内膜、子宮筋、皮膚において Estrogen の生合成がおこなわれている。
- 2) 正常な子宮内膜および皮膚において、Estrone → Estradiol よりも Estradiol → Estrone が優位である。皮膚では Estrone → Estradiol より Estrone → 16-epi-Estriol, Estriol が優位である。
- 3) 各組織によって Estrogen の転換率が一定であることが、強く示唆された。
- 4) 汎発性鞏皮症の皮膚では Estrogen の転換率は著明に低下し、特に Estriol 生合成が強く阻害されている。筋腫子宮では、汎発性鞏皮症における場合と同じ傾向を示した。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、末梢臓器組織における Steroid Hormone の生物学的作用を解明する一助として  $\beta$ -Estradiol-6,7- $^3$ H 及び Estrone-4- $^{14}$ C を子宮内膜、子宮筋、及び皮膚の組織標品に添加し、Estrogen 4 分画を分離定量し、之等の組織では Estrone と Estradiol の相互転換のみならず、16-Hydroxylation が強く起るが、一方汎発性鞏皮症の皮膚及び筋腫子宮では 16-Hydroxylation が強く抑制されていることを発見したもので価値ある業績と認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。